

「職場の中の青年活動」

連合山形青年委員会

事務局長 谷口 拓平 (たにぐち たくへい)

連合山形青年委員会とは

連合山形は1989年結成

- ・長年の悲願であった労働界全体の統一として生まれた
- ・県内唯一のナショナルセンター
- ・新しい時代に入り、連合・連合山形に対する期待は大きい
- ・青年の若い力が連合運動発展への大きな役割を担うもの

青年委員会は1991年結成

- ・青年の持つエネルギーを積極的に引き出し、青年自らの自立精神の発揮、豊かな人間形成の高揚、創造性の啓発、社会を担う一人としての自己形成などを図りながら、連合山形の組織強化・発展と連合山形を担う青年の育成をめざすことを目的



「青年委員会」の取り組みに関する考え方



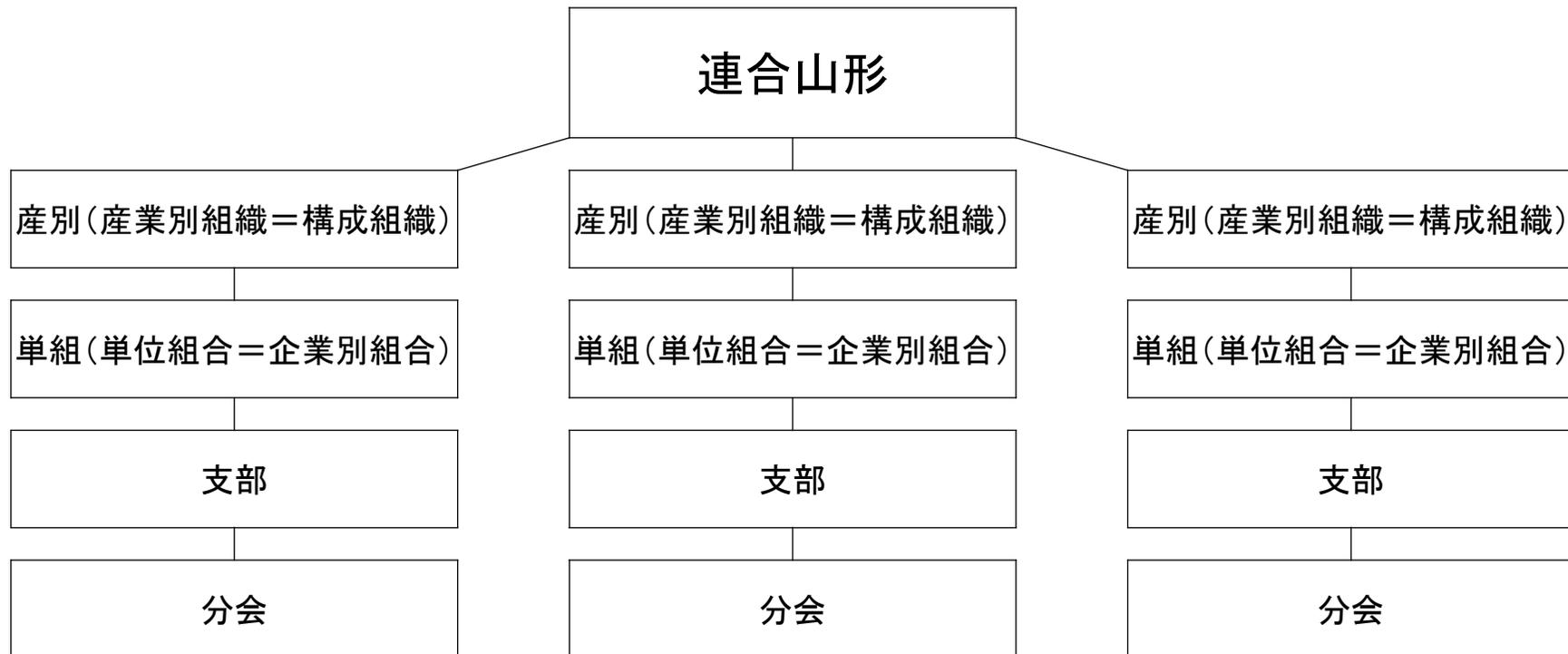
これまでの経過と現状

- ・連合が結成した直後は、青年組合員が旧ナショナルセンターの枠を越えて交流し、相互に理解し合うことの意義は大きく、「連合ユースラリー」と称して大規模な交流行事を開催し、成果を得た。
- ・バブル経済の崩壊以降に組合員数が減少し続け、時期を同じくして、各組織における青年活動のあり方について見直しが行われた。
- ・青年活動の主体を下部組織へ移行した組織が多かった。
連合本部の「青年委員会」はなくなり、地方連合会の青年委員会に活動を委ねた。また、連合全体の交流行事を縮小して構成組織の活動に任せ、さらに構成組織は単組へ、単組は支部へ、支部は分会へと、活動の範囲をより職場に近い単位に移行した。

同時に多くの企業では、新入社員の採用を控えたために新入組合員の数が減り、各職場での青年組合員の人数が全体的に減少した。また、中高年層がリストラされた職場では、20代～30代の責任と業務量が増え、仕事上での負荷が高まった。この年代はちょうど、組合の青年活動を現場で支えるリーダーの層とも重なり、青年リーダーの組合活動に対する時間的・精神的な負担が以前より大きくなってしまった。



用語解説…産別、単組、支部、分会について 連合



「青年委員会」の取り組みに関する考え方



①活動範囲を縮小したことにより

- ・「職場や企業、産業の枠を越えた出会いや交流の場」という青年活動の魅力が半減
- ・参加メンバーの固定化、企画のマンネリ化、予算の削減、青年リーダーの負担感の増加、青年活動への魅力の低下
悪循環が生じ、青年活動を通じた人材の発掘と育成においても困難な状況が生まれた。

②各職場にいる多くの青年リーダーは、

- ・「行事を企画しても参加者が集まらない」
「青年活動の意義が評価されない」などの悩み

③地方連合会の青年委員会活動

- ・青年委員会の役員が、年間行事をはじめ、定例の幹事会などに、各職場との調整がつけられず参加できないという声。

非専従の青年リーダーが、業務上、非常に忙しく、各職場を抜けられないという状況も十分に踏まえたうえで、各構成組織の連合活動へのさらなる協力・支援体制が期待されている。



「青年委員会」の取り組みに関する考え方



各組織での地道な活動の継続

- ・各単組や支部、分会の単位では、困難な状況下においても、それぞれに工夫をこらし、活発な活動を絶えることなく脈々と継続。
- ・それらの組織では、「職場の人間関係を円滑にすることによって、働きやすい職場環境をつくる」という労働組合の目的に沿って、「若い組合員が組合活動に参加するきっかけづくりの場」「組合の次代を担うリーダーの発掘と育成の場」としての青年活動の意義を、組織的に明確に位置付けることにより、職場でのイベントや研修会・セミナーなどを企画・実施。
- ・地方連合会においては、ほぼすべての都道府県に「青年委員会」があり、毎年、定期総会を開催して年間活動方針を決め、様々な取り組みを展開。

その内容は、
地域貢献、福祉・ボランティア、環境問題、男女共同参画、災害支援、政治参加、平和運動、国際問題などの幅広いテーマで、学習会、交流イベント、ボランティア活動、スポーツ・レクリエーション活動、街頭宣伝行動など。

これらの取り組み

青年組合員が力を合わせて企画・実施していくことを通じて、
「各地域における構成組織の枠を越えた仲間づくり・ネットワークづくり」が実践されている。



働く青年層を取り巻く状況

青年層のメンタルヘルスと、格差の拡大

- ・バブル経済の崩壊以降、多くの職場では、
 - ①50代のリストラに伴う年齢構成の変化や、同じ職場に多様な雇用形態の労働者が働くようになった。
 - ②時間外賃金を抑制しようとする中でおこる「不払い残業」などもあり、働き盛りの青年層の長時間労働が常態化。
 - ③成果主義賃金に代表されるような人事制度の変更などもあり、職場内の協力体制やコミュニケーションがとりにくくなった。
 - ④仕事における将来への中長期的な希望が描きにくくなったことなどを背景に、うつ病などのメンタル面の疾患が増えた。
中でも、いわゆる「30代のうつ」が増加し、各職場において深刻な問題となった。



働く青年層を取り巻く状況

一方労働組合の外(そと)

・日本国内の所得格差が広がっている。正社員と非正規労働者との格差
パート・契約・派遣・請負・日雇い派遣・フリーター・個人請負などと呼ばれる非正規労働者は、正社員との年収や生涯所得の格差が非常に大きいことに加え、就労形態そのものが不安定であり、また教育・訓練の機会にも恵まれていない。

そのため、将来に向けた人生の計画を描きにくいばかりでなく、目の前にある不安から、結婚や出産を躊躇する人も多く、少子化の要因にもなっている。

このような青年層の多くは、労働組合のない職場で働いている、あるいは、組合はあっても「非正規」であるために加入できない「未組織労働者」。

労働組合があれば守られる労働者としての基本的な権利が守られず、労働条件の一方的な引き下げや、正当な理由のない突然の解雇なども起きている。

青年層だけを比較しても、未組織労働者の働く環境は、連合の組合員よりも大変厳しい状況に置かれている。

連合の青年組合員の周辺にも、仕事上で、あるいは個人的に、多くの「未組織労働者」がいる。

この「身近にいる仲間」に対して、労働組合の青年組織として、まったく無関心でいることはできない。



連合山形第28回定期大会「活動方針」



「ストップザ格差社会！」

すべての働くものを連合の輪へ「安心社会」を切り拓こう！」

- ・「働くことを軸とする安心社会」の実現

「底上げ・底支え」「格差是正」「ディーセント・ワーク」に取り組む

「組織力」「発信力」「政策立案能力」「政策実現力」を高める

労働組合の組織率は年々下がり続けており、

雇用労働者全体では、組合員は5人に1人もいない。

未組織の職場に組合を結成して仲間を増やし、労働条件や労働環境を改善していく。

組織拡大の取り組みは、連合全体で取り組む最重要課題である。



青年層が実感している「労働組合の必要性」



労働組合のない職場に組合を結成すること

- ・当事者にとって大変勇気のいることである。
その中で、仲間や後輩たちのためにも「より良い職場に変えていこう」と、勇気を持って行動を起こすのは20代～30代の若者や女性を中心に、組合づくりの現場には、“若者の組合離れ”はない。
- ・2005年に連合の青年組合員を対象に行った『連合・青年意識調査』
95%が「労働組合は必要だ」と答えている。2007年に連合総研が行った調査においても、組織内・未組織を問わず、
6割を超える働く青年層が、労働組合の必要性を認識している。むしろ労働運動の課題は、これら青年層の意見をいかに反映し、今日の若者の意識や感性にあった運動を展開していけるかである。青年層がもつ独特の創造性、行動力、連帯感を、これまで以上に連合運動に活かしていくことが求められている。



労働組合における青年活動の重要性



連合がめざす青年活動

・2003年の『連合評価委員会・最終報告』

「若者、女性が生き生きと活躍できる組合活動でないと、将来性はない」と指摘されている。

また、同じく2003年に「連合ユース・プロジェクト」で検討し、集約した『明日の連合をつくる青年活動の指針』の中では、連合が青年活動を進めるに当たって、以下の4つの目的意識を明確にして取り組むことを提言している。

- 労働運動を担うリーダーの育成
- 仲間どうしの交流・ネットワークづくり
- 青年が抱える特有な問題の把握と解決
- 労働運動を通じた社会活動・国際連帯



労働組合における青年活動の重要性



「職場の活性化」に果たす役割

- ・各職場で行われている青年活動の中には、交流イベントやレクリエーション活動も多い。これを“単なる遊び”にとらえるのではなく、「職場の活性化」に必要なものと位置づけることが重要である。
- ・どのような業種・職種においても、職場の人間関係が円滑なほど、情報共有化や効率化の面からも組織としての力を発揮する。そして何よりも、労働組合がめざす「働きやすい職場づくり」にとって、青年活動は重要な役割を担っている。
- ・今日、労働組合はもちろん経営者のあいだでも、職場内のコミュニケーションや人間関係の重要性が、改めて見直されている。その意味からも、青年活動が果たしてきた職場における役割の重要性を改めて確認する必要がある。



労働組合における青年活動の重要性

リーダーの発掘と育成

- ・各組織の次代を担うリーダーを、活動を通じて実践的に育成する場としても重要である。
- ・青年活動においては、日頃から組合員との信頼関係づくりやニーズの把握等を基礎に、定期総会で活動報告や行い、年間の活動方針を決定する。
また、具体的な活動を展開する場面で、行事の企画、実行委員会編成、参加者の募集と勧誘、事前準備、外部との調整、実施、評価・反省、記録、などの手順が必要となる。
- ・これらの年間活動は、労働組合活動そのもので、青年活動を実践する中で、自然に組合活動の基本的なノウハウを経験する「訓練の場」にもなる。
実際に青年活動を経験し、各職場で仕事においても人間関係においても信頼される青年リーダーの中から、将来の組合執行委員としての人材を発掘し、育成している組織も多い。



労働組合における青年活動の重要性 連合

仲間づくり・ネットワークづくり

・青年活動の中では、みんなで一緒に力を合わせて、一つのものを創り上げる「達成感」と「感動」を味わう場面が多くある。

このような感動を20代や30代で経験することの意義は大きく、その中で生まれる「仲間意識」や「連帯感」は労働組合の原点でもある。

そのような青年活動の体験は、個人の生きがいや、働きがいにもつながると同時に、労働組合活動に参加する目的を明確にし、今後の活動への意欲向上につながる。

また、仲間づくりの輪が、職場を越え、企業を越え、産業を越え、地域を越えた連携であった場合、そのような人的なネットワークは、個人にとっても、組織にとっても大きな「財産」となる。

労働組合としては、青年活動を通じた、そのような「出会いと仲間づくり」の機会を意図的に作り上げていく必要がある。とりわけ、全国および全産業にまたがるネットワークづくりは、連合「青年委員会」としての重要な役割である。



連合山形青年委員会活動の2本柱



「①学習」と「②交流」

⇒学習と交流は、身の回りにある問題や課題が、自分だけのものではないことに気づくことができる。

また、討論を深めて行くところから多くの仲間ができ、大衆行動としての社会に対する大きな力となる。

山形・日本の社会を支えていくのは、青年労働者である。



連合山形青年委員会活動の2本柱



①スプリングアクション(2015年3月7日)



【第1部】春闘決意表明

4つの組合の代表者から、春闘での青年層の組合員の要求項目を発表

【第2部】デモ行動

【第3部】連合山形「2015春季生活闘争決起集会」・「統一自治体選挙勝利！決起集会」

連合山形推薦候補者全員の当選に向けて、モンテディオ山形の応援歌を替え歌にしてエールを送りました！



連合山形青年委員会活動



②連合東北ブロック男女平等参画推進フォーラム(2015年6月26日)



【1日目】 講演

「男女平等参画の推進～重要性と課題～」

「仕事も家庭も、よくばろう！」

～脱“不機嫌な職場 不機嫌な家庭”」

⇒「イクボス」の講演

【2日目】 グループ討議とプレゼンテーション

「職場で実践！ ビジネスマナー

～あなたは 何型？

自分を活かすプレゼンテクニック法～」



連合山形青年委員会活動



③2015男女共生集会(2015年10月30日)



「ワーク・ライフ・バランス講座」

⇒男女区別なく、個人が仕事上の責任を果たしつつ、結婚や育児をはじめとする家族形成の他、介護やキャリア形成、地域活動への参加等、個人や家族がライフライフステージに応じた希望を実現で切るようにすること。

ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、「良いイクボス」と「ダメなイクボス」の特徴についてグループ討議を行い発表を行いました。



連合山形青年委員会活動



「交流」活動の紹介

① スキー・スノーボード学習交流会 (2015年1月31日～2月1日)



⇒ スキーとスノーボードのグループに分かれて、自由に交流する (10:30～15:30)

交流会後は、講演を受けて分散会に入り、労働組合の役割と存在意義について話し合いながら、春闘の要求づくりを体験する

(16:30～18:20)

1日の最後は、夕食交流会・二次会… (18:30～)



連合山形青年委員会活動



「交流」活動の紹介

②「連合山形ボウリング大会 & ビアガーデン交流会」

(2015年7月25日)



⇒幅広い交流をめざして、あえて組合の枠を外し、シャッフル編成したチームとしました。初対面の人が多いにも関わらず、ストライクやスペアでハイタッチ。

ボウリング終了後は、ビアガーデン交流会に移り、団体・個人の部で表彰式を行いました。



連合山形青年委員会活動



③「連合山形2015青年交流集会」(2015年8月28日～29日)



【1日目】 Asahi自然観

⇒多くの組合と交流ができるような班を組み、
1時間30分の分散会を行います。
分散会後は、班ごとに発表を行い、
バーベキュー交流会に移ります。

【2日目】朝日町役場
リース作りを行いました。

※2014青年交流集会では、山形市の
福祉施設でボランティア活動を行いました。



連合山形青年委員会活動



「その他」活動の紹介

「2015山形県中央メーデー」(2015年4月29日)



山形市の「第二公園」から霞城公園まで行進の後、式典に移ります。



青年委員会イベント

～探して・ナゾ解き・宝「TORU!」～

⇒霞城公園内6つのチェックポイントで、制限時間内に問題を解き、ゴール。

得点とゴールしたタイムを競うウォークラリー!



連合山形青年委員会活動



「その他」活動の紹介

投票に行こう街頭行動(2014年12月5日・6日、2015年9月9日・12日)



⇒「投票に行こう」の6文字のプレートと、のぼり旗を持ち、「投票」と「期日前投票」を呼びかけます。

連合の掲げる、「働くことを軸とする安心社会の実現」等の呼びかけを行いました。



連合山形青年委員会活動



「その他」活動の紹介

①「連合ユースフォーラム」(2014年10月18～19日、札幌市)



全国規模の青年組合員の集会！

第15回の開催となり、日本各地から100人を超える若手組合員が集まり、これからの連合活動について、熱い青年の思いをグループ毎に話し合いました。

夜は、参加者全員で大懇親会・グループ毎に二次会がありました。

連合ならではのスケールメリットを活かした集会であり、日頃の組合活動に対する悩みを共有することができました！



アイスブレイクをしてみよう！

「無人島SOS」

船に乗って旅行中のことです。ある日、大きな嵐がやってきて、あなたの乗った船が、こなごなに壊れてしまいました。あなたは、壊れた船のかけらにつかまって、小さな無人島にたどり着きました。

島には、食べ物と水はありますが、他には何もありません。

島で生き抜いていくため、または島から脱出するためには、いったいどんな物が必要でしょうか。次の中から、あなたがもっとも大切だと思うものを8つ選んで、上位から順に番号を記入して下さい。

どんな言葉が入るかな？

〇〇の2人に1人が

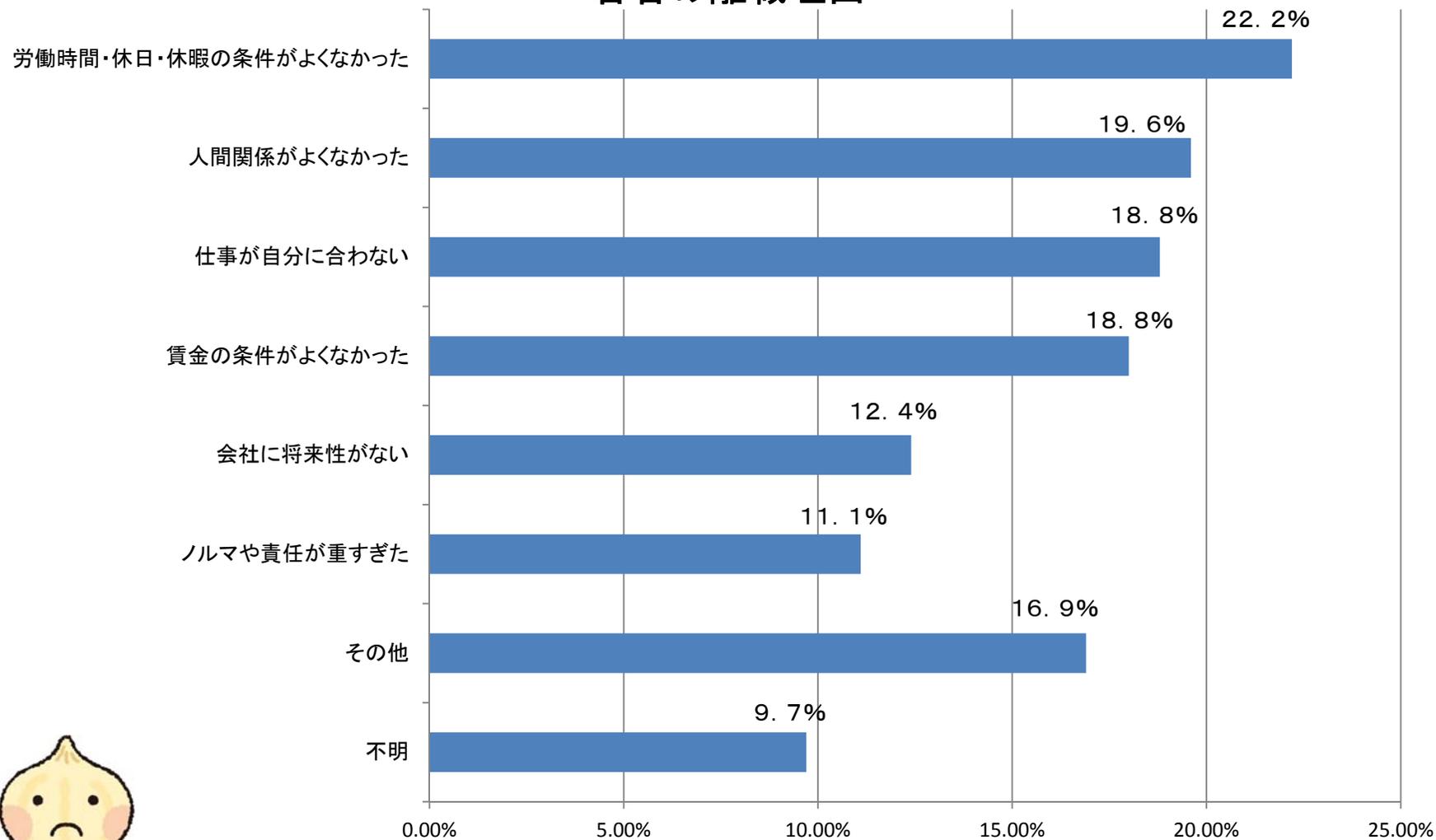
△△の3人に1人が

不安定□□



若者の離職理由はなんだろう？

若者の離職理由



ご清聴ありがとうございました。

